

主流派による積極的な勧誘活動

教団は、毎年100人程度に上る多数の新規信徒を獲得している。平成28年（2016年）中の新規信徒の内訳を見ると、地域別では、北海道及び近畿地方が全体の6割以上を占め、年齢構成比では、全体の8割近くを青年層（34歳以下）が占めている。

特に主流派は、組織拡大に向け、近年、オウム真理教に関する知識の少ない青年層を主な対象とする勧誘活動を積極的に行っており、あらゆる機会を設けて広く一般人と接点を持ち、教団名を秘匿したヨーガ教室などに誘って人間関係を深めた後に、教団へ入会させている（下図参照）。

主流派の勧誘活動の流れ

第1段階

- 教団名を秘匿し、宗教色を感じさせない形で、ヨーガ、占い、食事会などの各種イベントの開催、街頭や書店での声掛け、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)での交流などを行い、広く一般人との接点を持つ。
- その中で、宗教やヨーガ、精神世界に興味を持つ者などを、教団名を秘匿したヨーガ教室や勉強会に誘う。



教団が作成したイベント案内のビラ



書店での声掛け

第2段階

- ヨーガ教室などでは、別の信徒が指導などを行いながら、勧誘対象者との人間関係を構築する。
- また、麻原の名前を出さずにその教えの内容を解説したり、地下鉄サリン事件などは教団以外の者による陰謀であると説明したりしながら、勧誘対象者が教団に対する抵抗感がないようにしていく。

第3段階

- 人間関係が構築され、教団に対する抵抗感がないような段階に至ってから、勧誘対象者に教団名を明かして入会を促す。